



# シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2023年度春期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

## モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2023年度春期調査結果の概要

### 全国118ヶ所のサイトで参加

2023年度春期調査は、2023年4月1日から2023年5月31日までの期間実施しました。全国118サイト（暫定値）で調査が実施し、このうち一斉調査（2023年4月25日を基準日とした前後1週間の調査）には103サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類43種38,658羽のほか、ヘラサギ2羽、クロツラヘラサギ24羽が記録されました。春期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類47種60,604羽のほか、1,375羽、ヘラサギ16羽、クロツラヘラサギ230羽、ズグロカモメ25羽が記録されました。

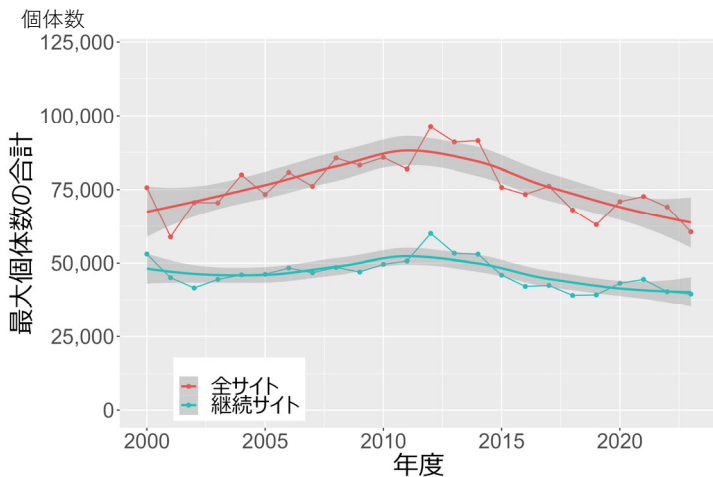


Fig.1. 春期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2023年度の全サイトN=160,継続サイトN=38）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシギ類は除外。

### 春期の個体数は2年連続減少

2000年度春期以降の「全サイト」と「継続サイト（2000年から調査を継続しているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトには廃止済のサイト・新規サイトが含まれるため、継続サイトとは傾向が異なる場合があります。調査年の実績を示すために全サイトを、経年変化を把握するために継続サイトを解析しています。最大個体数の合計を前年度春期と比べると、全サイトでは8,561羽減少し60,587羽、継続サイトでは781羽減少し39,500羽となりました。全サイト、継続サイトともに過去2年連続で減少しました。全サイトでは減少傾向を、継続サイトではやや緩やかな減少傾向を示しています。

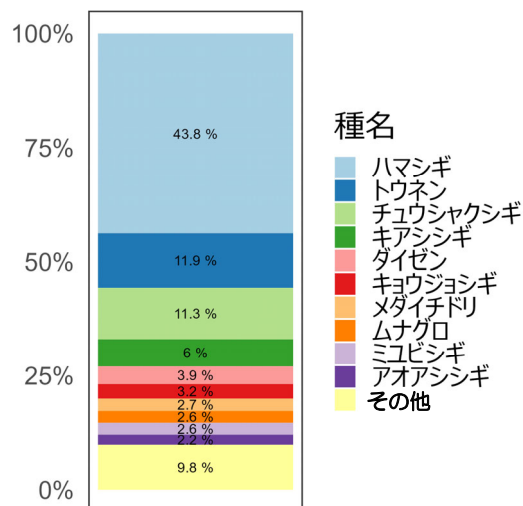


Fig.2. 2023年度春期調査における種構成比

### 前年に比ベトウネンの個体数が増加

最大個体数における個体数上位5種は、ハマシギ（43.8%）、トウネン（11.9%）、チュウシャクシギシギ（11.3%）、キアシシギ（6.0%）、ダイゼン（3.9%）となりました（Fig.2）。上位10種では、10位のアオアシシギ以外は前年と同じ構成でした。全体の半数をハマシギが占める傾向は例年と同じでした。それぞれ全体の約11～12%を占めるトウネンとチュウシャクシギについては、前年に大きく減少したトウネンは増加し、一方でチュウシャクシギ、キアシシギは減少したためトウネンの順位は2位となっています（Fig.3）。

## チュウシャクシギ、キアシシギが減少

種別の最大個体数の前年比較では、増加数ではトウネンが2,432羽と最も増加しました（Table 1 左表）。減少数ではハマシギが最も減少し、-4,776羽（約15%減少）でした（Table 1 右表）。減少数上位のキアシシギ、キョウジョシギ、チュウシャクシギが、1,000羽以上の減少となった一方、増加数上位のオバシギ、ミヤコドリ、ミユビシギは、200羽以下の増加となり、減少数が大きい種が目立ちました。また、増加率では、オバシギが約2.25倍に増加しており、減少率ではソリハシギが高く、-45%に半減していました。

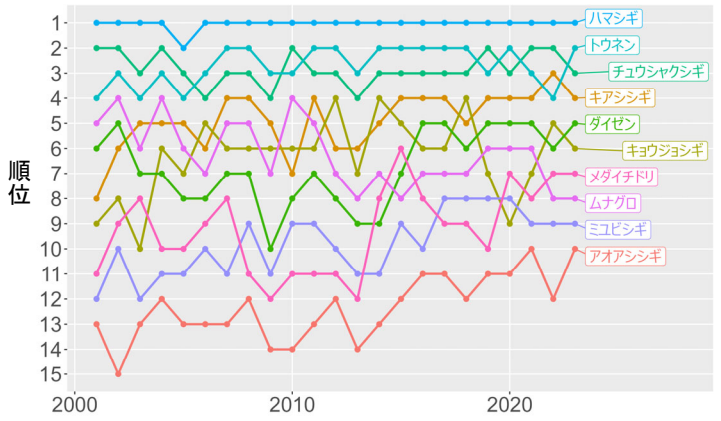


Fig.3. 2023年度春期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2023年度)

Table 1. 2023年度春期における種別の最大個体数の前年差 左表：増加上位5種、右表：減少上位5種

2023年度春期最大個体数 増加数上位 (全サイト)					2023年度春期最大個体数 減少数上位 (全サイト)				
種名	2022年度春	2023年度春	前年差	前年比	種名	2022年度春	2023年度春	前年差	前年比
トウネン	4,793	7,225	2,432	1.51	ハマシギ	31,324	26,548	-4,776	0.85
オバシギ	155	350	195	2.26	キアシシギ	5,678	3,651	-2,027	0.64
ミヤコドリ	707	805	98	1.14	キョウジョシギ	3,029	1,923	-1,106	0.63
ミユビシギ	1,473	1,554	81	1.05	チュウシャクシギ	7,937	6,834	-1,103	0.86
コチドリ	366	445	79	1.22	ソリハシギ	1,445	788	-657	0.55

## 北海道のサイトで増加傾向

50羽以上観察されたサイトのうち最も個体数が多かったサイトは例年と同じく大授搦<sup>だいじゆがらみ</sup>（佐賀県）で、2位の中津干潟（大分県）の約3倍の記録がありました。以下、三番瀬（千葉県）、球磨川河口（熊本県）、藤前干潟（愛知県）が上位であり、例年同様、九州や太平洋側のサイトに個体数が多く見られる傾向がありました（Table 2）。また、上位10サイト中7サイトで減少していました。一方、減少数が大きかったサイトには、中津干潟（大分県）、早津江川河口（川副町）（佐賀県）、鹿島新籠海岸（佐賀県）、不知火干潟（熊本県）など九州のサイトが含まれていました。また、増加したサイトには、湯沸湖（北海道）、稚内市声間（北海道）、鳥の海（宮城県）と北海道・東北のサイトが含まれていました。今年度の春期調査では、前年の北海道地域の大幅な減少に対する増加と、九州地域を中心とした西日本サイトの減少が広く記録されていると考えられます。

Table 2. 2023年春期における最大個体数上位10サイト

2023年春期最大個体数 上位10サイト				
サイト	2022年春	2023年春	前年差	前年比
大授搦	14,707	15,988	1,281	1.09
中津干潟	5,833	4,229	-1,604	0.73
三番瀬	3,117	3,125	8	1.00
球磨川河口	2,237	2,323	86	1.04
藤前干潟	2,360	2,048	-312	0.87
氷川	2,280	1,767	-513	0.78
白川河口	2,237	1,641	-596	0.73
高松～河北海岸	1,629	1,627	-2	1.00
不知火干潟	2,026	1,498	-528	0.74
風蓮湖	1,487	1,379	-108	0.93

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真：コチドリ(守屋年史)  
2023年度 春期概要

発行元：環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集：特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-505-4044

メール: [shigichi@bird-research.jp](mailto:shigichi@bird-research.jp)